

中学校だより

HPアドレス <http://www.komae.ed.jp/jh/03/>

令和3年3月10日特別号

狛江市立狛江第三中学校

校長 工藤 聡

電話 03-3489-5416

← 三中ホームページで、カラー版をご覧になれます

「違いを超えて、ともに生きる」

～多様性を認め、持続可能な社会を作るために～

前号の学校だよりでお知らせしました通り、3月9日(火)午後、オリンピック・パラリンピック講演会のため、俳優として活躍されているサヘル・ローズさんにお越しいただき、上記のテーマでお話をいただきました。1時間以上にわたる熱いお話は、まさに今年度を締めくくるにふさわしいお話であったとともに、三中の財産となるお話でした。以下に、いただいたキーワードをお伝えいたします。



- 幼いころ、小さいころは、どうやって自分のSOSを出したらいいのかわからないのです。ですから、ひと声かけてあげてほしい。いつもと違う、様子がおかしいと感じたら、「どうしたの？大丈夫??」と声をかけてあげるだけで救うことになるのです。
- 言葉の大切さを痛感します。SNS等で言葉が至る所にある。けれども、無神経に発することで人を傷つけていませんか。言葉の暴力に気が付くことが大切だと思います。
- 大人たちは守ってくれなかった。自分が傷ついていると訴えたことに対して、その人たちにそれはだめだと言ってくれなかったのです。だからこそ、周りにいる人たちが、気が付いたら守ってあげてほしいのです。
- 目標をもって生きることの大切さ。それを学びました。それは、自分がもうだめだ、耐えられない…もう死のう…と思ったときに、母が今まで決して見せることのなかった辛い、疲れたといった「本音」を目の当たりにして、わたしは「生かしてもらっていること」に気が付いたので。それから私は目標をもって生きることの大切さを心しています。目標を手帳やいつも目に入るところにはっきりと書いて、それを1年、2年かけて実現するよう努力しています。1年経って、1つでも2つでも実現できたならそれは感動です。
- いくつもの難民キャンプで、皆さんと同じぐらいの年代の子どもたちを救うための活動を通じて感じることは、それは目の輝きです。なぜ輝いているか、それは人生の目標がはっきりとしているからに違いありません。
- いじめられていた自分は、自分の個性を否定していました。個性を消して、何でも周囲に合わせていけばいじめられないと思っていました。けれど、高校の先生に会って変わりました。一人の親友を得ることが人生では奇跡なのです。そのためには、「自分らしさを出さないとだめ」と諭してくれました。
- 知らないこと、間違えることは恥ずかしいことではありません。一番よくないのは無関心でいること、冒険心を持たないことなのです。常に疑問をもって生きることが大切です。知らないことは恥ではありませんよ。

○ 悩みや苦しみが無い人なんて一人もいません。みんな悩みや苦しみを、人に話せないことなど持っているのです。けれど、それを内に秘め、笑顔をかぶっているのです。

○ 自分の弱さを否定することはありません。無理して強くななくていいのです。頑張らなくていい。疲れたと言っていい、泣きたかったら泣いていいのですよ。人の痛みを感じることができるとは大切です。そしてそれは、自分の「闇」の部分を受け入れることにもなるのです。



○ コロナで失われた日常の大切さ。それに気が付きましたね。今まで当たり前だったことが当たり前でできなくなったこと。そのことから学ぶこともあるのです。

○ コロナ禍の中でこそ学ぶこと、それは友達の大切さであり、対面で話すことの大切さ、互いの距離を取りながらもコミュニケーションをとっていくことの大切さ…スマホの画面の中にいる友達ではなく、対面で、互いの目に相手が映っていて…目で何を見て、口で何を発し、耳で何を聴くのか。このことが大切だと思うのです。

○ 自分探しの旅という言葉がありますね。確かにそういう「旅」もあるかもしれませんが。けれど私は、その必要はないように思います。自分に向き合い、自分の個性を伸ばすことが重要です。

○ 日本に来て、生きていて本当によかったと思います。それは、自分の人生は様々な人たちに支えられていることに気が付き、その毎日だからです。



生と2年生の教室を回り、笑顔と明るさをもって接してください、質問にも丁寧に答えてくださっていました。また「中学校にはトラウマがあって、結構ハードルが高いのです。けれどこの子どもたちにはまっすぐに向かうことができました。本当に素直な、いい子たちですね」という感想も述べられていました。

「グローバル化、国際化という言葉がファッション化してほしくないのです。人との距離や壁から生まれる差別やいじめ、争いは相手のことがわからないから起こります。私たちは、相手のことがわかったつもりになっているようで、その背景まで見ることを忘れていているように思います。

“これが普通”といった自分の基準、標準で他者を除外するのではなく、異なる視点や価値観を学びとして吸収してほしい。他者は自分にとって人生の教科書になるはずですよ。というサヘルさんのメッセージ、大切にしていきたいです。

サヘル・ローズさん、熱いメッセージを伝えてくださり、本当にありがとうございました！

ここまで上げた「キーワード」は、今回の講演会のすべてではありませんが、講演が一区切り終わった後、生徒から次々に質問が出て、それに身振り手振りを交えて答えてくださるサヘルさんの姿は、一生懸命子どもたちにメッセージを伝えようとするお気持ちにあふれていました。そのお気持ちは生徒たちの心にまっすぐに入っていたのだと思います。3年生のみが参加していた体育館での講演が終わった後は、オンラインで視聴していた1年

